

36. 混合酸性染料によるナイロン布の染色性

大阪市立大 島崎 斐子

1. 実際の染色における色合せの科学的基準を得るために本実験を行なった。

2. 2種の酸性染料の混合系により、混合比および濃度を変えナイロン布を染色し、各染料の染着量および染色布の色度の変化を測定した。

染料としてはメタニールエローとロクセリンの2種を用い、醋酸ソーダ・アルコール法により高度に精製した後、チタン分析によりその純度を決定し、何れも95%以上とした。上下動型自動染色機により70°Cにて3時間染色し、残浴中の光学的密度を400, 430, 490, 530 μ の4つの波長において測定し、これから混合系中の各染

料の染着量を計算した。光学的密度はベックマン型分光々度計により，測色はハンター型色差計により測定した。

3. 実験に用いた酸性染料にて染色したナイロン布の色彩をCIE表色法にてあらわすと，染料を夫々単独に用いた場合および混合比が一定の場合は染着量の増加に従って彩度を増し明度を低下するが，主波長の変化は比較的少なく，また，混合比を変化させた場合は，夫々の染料の染着量の割合の変化につれて主波長が変化するが，彩度の変化はあまり大きくないことが認められた。